

ビジネスパートナー都市（BPC）  
ラウンドテーブル会議 大阪 2018  
報告書

## 目次

BPC ラウンドテーブル 2018 大阪 概要	2
BPC ラウンドテーブル 2018 大阪 全体日程	3
アルバム	5
ラウンドテーブル会議 開催報告	8
BPC ネットワーキング昼食会 開催報告	18
BPC ビジネスイノベーションセミナー開催報告	18
ベトナム IT 商談会 2018 (大阪) 開催報告	19
万国博覧会 (World EXPO) 2025 プロモーションツアー 実施報告	20
BPC ラウンドテーブル ネットワーキングレセプション開催報告	20
大阪市 イノベーション創出拠点 視察ツアー	21
大阪ベイエリア 視察ツアー (オプション) 実施報告	21

## BPC ラウンドテーブル 2018 大阪 概要

大阪市と大阪ビジネスパートナー都市交流協議会は、BPC ネットワークの創設 30 周年の節目となる本年、大阪を開催地として、平成 30 年 8 月 30 日（木）にハイアットリージェンシー大阪にて「BPC ラウンドテーブル 2018」を開催しました。会議では「BPC 各都市におけるビジネスイノベーションの創出と国際競争力の強化について」のテーマのもと、9 都市が各都市のビジネスイノベーションの創出の為の取り組みや課題を発表し、活発な意見交換が行われました。

併催プログラムとして、同日の午後には、大阪外国企業誘致センター（O-BIC）の主催で「企業誘致プロモーション&BPC ネットワーキング昼食会」が行われた後、大阪市の主催により、在阪企業のオープンイノベーションの促進やベンチャー企業の育成に向けた取り組みの紹介を目的とした「BPC ビジネスイノベーションセミナー」、そして大阪市の万博誘致に向けた取り組みや候補会場の夢洲地区の紹介を目的とした「万国博覧会（World EXPO）2025 プロモーションツアー」が実施されました。また、別会場では、日本企業とベトナム企業とのビジネスマッチングを目的に「ベトナム I T ビジネス商談会」も開催されました。

同日の夕刻には、大阪市の主催により「BPC ラウンドテーブルネットワーキングレセプション」が開催されました。冒頭に、吉村市長よりラウンドテーブル会議のテーマであるイノベーションの創出における BPC 間の更なる協働と経済成長に向けた「BPC 大阪宣言」が行われた後、会場では会議参加者、駐日外国公館・経済団体関係者など約 120 名が活発な交流を行いました。

ラウンドテーブル会議前日の 29 日（水）には、「大阪市 イノベーション創出拠点 視察ツアー」が実施され、大阪イノベーションハブにて、大阪市のイノベーション創出の取り組みの紹介や在阪スタートアップによるプレゼンテーション（ピッチ）が行われた後、「BPC ウェルカムディナー」が実施されました。

ラウンドテーブル会議翌日の 31 日（金）には「大阪バイエリア 視察ツアー」が実施され、会議参加者は G20 サミット 2019 の候補会場である INTEX 大阪と製品評価技術基盤機構（NITE）を訪問し、大阪バイエリアの最新動向を視察しました。



ラウンドテーブル会議開会前に行われた記念撮影

**BPC ラウンドテーブル 2018 大阪 全体日程**

8月29日(水)

**18:00-18:45 大阪市 イノベーション創出拠点 視察ツアー**

訪問先: 大阪イノベーションハブ(OIH)

参加者: BPC ラウンドテーブル参加者

**19:00-20:00 BPC ラウンドテーブル ウェルカム ディナー**

会 場: グランフロント大阪南館 7F

主 催: 大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会

参加者: BPC ラウンドテーブル参加者

**20:00-20:30 ナイトツアー**

訪問先: 梅田スカイビル 空中庭園展望台

参加者: BPC ラウンドテーブル参加者

8月30日(木)

**9:30-11:45 BPC ラウンドテーブル (午前)**

テーマ: BPC 各都市におけるビジネスイノベーションの創出と国際競争力の強化について

会 場: ハイアットリージェンシー大阪 宴会棟 3F 「Regency-E」

次 第: 開会～各都市からのプレゼンテーション

参加者: BPC ラウンドテーブル参加者他

**12:00-13:30 BPC ネットワーキング昼食会**

会 場: ハイアットリージェンシー大阪 B1F

主 催: 大阪外国企業誘致センター(O-BIC)

参加者: BPC ラウンドテーブル参加者、BPC ビジネスミッション団他

※ O-BIC による企業誘致プロモーション実施

**13:45-15:00 BPC ラウンドテーブル(午後)**

テーマ: BPC 各都市におけるビジネスイノベーションの創出と国際競争力の強化について

会 場: ハイアットリージェンシー大阪 宴会棟 3F 「Regency-E」

次 第: フリーディスカッション～総括～閉会

参加者: BPC ラウンドテーブル参加者他

- 15:30-16:30 **BPC ビジネスイノベーションセミナー**  
会 場: ハイアットリージェンシー大阪 「Regency-D」  
プログラム: 講演① ダイキン工業株式会社 テクノロジー・イノベーションセンター  
講演② 阪急阪神不動産株式会社  
参加者: BPC ラウンドテーブル参加者他
- 16:45-18:00 **万国博覧会 (World EXPO) 2025 プロモーションツアー**  
訪問先: 大阪府咲洲庁舎 44 階 会議室  
参加者: BPC ラウンドテーブル参加者他
- 14:00-17:30 **ベトナムITビジネス商談会 2018 (BPC ラウンドテーブル併催イベント)**  
主 催: 大阪市  
会 場: ハイアットリージェンシー大阪 2F クリスタルボールルーム 「ルビー」「クリスタル」  
参加者: ベトナムIT企業16社、在阪企業など
- 18:30-20:30 **BPC ラウンドテーブル ネットワーキング レセプション**  
会 場: ハイアットリージェンシー大阪 28F 「サロンパノラマ」  
主 催: 大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会  
参加者: BPC ラウンドテーブル参加者、  
大阪市、駐日外国公館・経済団体関係者他

8 月 31 日 (金)
--------------

- 9:15-11:30 **大阪バイエリア 視察ツアー(オプション)**  
訪問先: INTEX 大阪 (G20 サミット 2019 候補会場)  
(独)製品評価技術基盤機構 (NITE)  
参加者: BPC ラウンドテーブル参加者

# アルバム

## 【大阪市 イノベーション創出拠点 視察ツアー (29日)】



## 【BPC ラウンドテーブル会議 (30日)】



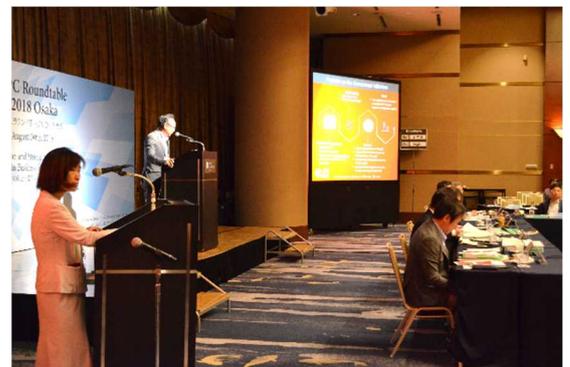
開会挨拶 (吉村大阪市長)



モデレーター (宮松氏) による会議進行



大阪市 (柏木経済戦略局長) によるプレゼンテーション



各都市によるプレゼンテーション



フリーディスカッション



【BPC ネットワーキング昼食会 (30 日昼)】



【BPC ビジネスイノベーションセミナー (30 日午後)】



【ベトナム I T ビジネス商談会 (30 日午後)】



【万国博覧会 (World EXPO) 2025 プロモーションツアー (30 日午後)】



【BPC ラウンドテーブル ネットワーキング レセプション (30 日夕刻)】



吉村市長による歓迎挨拶



デイビッド・ローソン在大阪オーストラリア総領事による来賓挨拶



【オプション視察ツアー (31 日)】



INTEX 大阪 (G20 サミット 2019 候補会場)



(独) 製品評価技術基盤機構 (NITE)

## BPC ラウンドテーブル会議 開催報告

大阪市と大阪ビジネスパートナー都市交流協議会は、BPC ネットワークの創設 30 周年の節目となる本年、大阪を開催地として、平成 30 年 8 月 30 日（木）にハイアットリージェンシー大阪にて、「BPC ラウンドテーブル 2018」を開催しました。会議では「BPC 各都市におけるビジネスイノベーションの創出と国際競争力の強化について」のテーマのもと、9 都市が各都市のビジネスイノベーションの創出のための取り組みや課題を発表し、活発な意見交換が行われました。

開催日時：2018 年 8 月 30 日（木）9：30～15：00

会 場：ハイアットリージェンシー大阪 宴会棟 3階 リージェンシーE

主 催：大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会

テ ー マ：「BPC 各都市におけるビジネスイノベーションの創出と国際競争力の強化について」

司 会：大阪市 経済戦略局 立地交流推進部長 和田 彩 氏

モデレーター：【午後の部】 KAHM ジャパン株式会社 代表取締役 宮松 寛有 氏

プログラム：

09:20-09:30	記念撮影
09:30	開会
09:30-09:35	開会挨拶 大阪市長 吉村 洋文
09:35-09:50	司会からの BPC 提携機関参加者紹介、進行説明
09:50-10:05	大阪市 プレゼンテーション
10:05-10:15	香港 プレゼンテーション（香港貿易発展局）
10:15-10:25	シンガポール プレゼンテーション（エンタープライズ・シンガポール）
10:25-10:35	クアラルンプール プレゼンテーション（マレーシア貿易開発公社）
10:35-10:45	上海 プレゼンテーション（上海市商務委員会）
10:45-11:00	休憩
11:00-11:10	ホーチミン市 プレゼンテーション（ホーチミン市人民委員会 産業通商局）
11:10-11:20	ムンバイ（インド）プレゼンテーション（在日本印度商業会議所） ※ オブザーバー参加
11:20-11:30	メルボルン プレゼンテーション（メルボルン市）
11:30-11:40	天津 プレゼンテーション（天津市商務委員会）
12:00-13:30	昼食
13:45-	ラウンドテーブル 午後の部 開始
13:45-14:40	フリーディスカッション（モデレーターの進行による）
14:40-14:50	モデレーターによるフリーディスカッション 総括
14:55-15:00	大阪市によるラウンドテーブル会議 総括 閉会

出席者：(8都市、70名)

	都市	団体名	部署・役職	名前
1	香港	香港貿易發展局	大阪事務所長	サミュエル・チェン
			マーケティングマネージャー	リッキー・フォン
2	シンガポール	エンタープライズ ・シンガポール	北東アジア・オセアニア担当 グローバルマーケットディレクター	ジョニー・テオ
			北東アジア・オセアニア担当 地域グループディレクター	ショーン・オン
			北東アジア・オセアニア担当 事業開発マネージャー	チャールズ・ニコラス・リム
3	クアラルンプール	マレーシア貿易開発公社	マレーシア貿易開発公社 大阪事務所 所長補佐	橋詰 裕志
4	上海	上海市商務委員会	外事処 処長	羅 志松 (ラ シンソ)
			顧問	羅 和慶 (ラ ワケイ)
			上海市外国投資促進中心 日本代表事務所長	劉 剛 (リュウ コウ)
5	ホーチミン市	ホーチミン市人民委員会	産業通商局 市場・外国人起業家振興部 部長	グエン・チ・ゴック
			産業通商局 輸出入管理部	フア・ツオン・リン・タオ
6	ムンバイ (インド)	在日本印度商業会議所 (ICCJ) ※ オブザーバー参加	在日本印度商業会議所 名誉会頭	カラニ・ラム
			在日本印度商業会議所 (ICCJ) 役員	ロイ・詩百理
			在日本印度商業会議所 (ICCJ) 役員	トラバリー・ファジール
7	メルボルン	メルボルン市	評議員、経済開発委員会委員長	ケビン・ルーイ
			ビジネス開発担当	ダーシー バトラ
8	天津	天津市商務委員会	天津市商務委員会外資促進処 (開発区処 調研員)	管介清 (カン カイセイ)
			天津市農村工作委員会外経処 調研員	李瑞海 (リ スイカイ)
			天津市商務委員会外資促進処 (開発区処) 副処長	張宏傑 (チョウ コウセキ)
			武清開発区総公司 総経理助理	馮立軍 (ヒョウ リツゴン)
			北辰経済技術開発区総公司 招商一部部長	劉媛 (リュウ エン)
			武清開発区総公司 招商七部部長	劉福偉 (リュウ フクイ)
			西青開発区管委會 日本事務所代表	慕鵬 (ボウ ホウ)
9	大阪	大阪市	大阪市長	吉村 洋文
			大阪市経済戦略局長	柏木 陸照
			大阪市 経済戦略局 立地交流推進部長	和田 彩
			大阪市 経済戦略局 立地交流推進部 イノベーション担当課長	柳内 忠彦
		モデレーター	KAHM Japan 株式会社 代表取締役	宮松 寛有
		大阪ビジネスパートナー都市 交流協議会 事務局	常務理事 兼 事務局長	原 法康
		一般財団法人大阪国際経済振興センター 国際部長	森 健二郎	
	オブザーバー	大阪ビジネスパートナー都市 交流協議会 構成団体	大阪商工会議所 常議員・中国ビジネス委員会委員長 伊藤忠商事株式会社 常務理事	深野 弘行
			大阪商工会議所 国際部長 大阪外国企業誘致センター 事務局長	齋藤 進
			大阪商工会議所 国際部 課長 大阪外国企業誘致センター 事務局次長	藤田 法子
		公益社団法人 関西経済連合会 国際部担当部長	日高 明子	
		大阪観光局 常務理事	芳田 隆	
		駐日外国公館／政府機関／ 経済団体	在大阪オーストラリア総領事館 総領事	デイビッド・ローソン
			在大阪ベトナム総領事館 総領事	ブ・トアン・ハイ
在大阪ベトナム総領事館 領事	キエウ・マン・リン			
在大阪・神戸インド総領事館 領事	ワイバワ A. タンダレ			
フィリピン共和国総領事館 商務部 商務アシスタント	J. ベルナルド F. ラトハ JR.			
タイ国政府貿易センター大阪 (DITP) 所長	チットウィパー・サクピタクサクン			
タイ国政府貿易センター大阪 (DITP) マーケティングオフィサー	タニタヤー・ブンヤ			
タイ投資委員会 (BOI) 大阪事務所 所長	パッチャラダー・ナワカウオンカーン			
タイ投資委員会 (BOI) 大阪事務所 投資促進アシスタント	ハタイ・ルンラッサミー			
オーストラリアビクトリア州政府 東京事務所 駐日代表	アダム・カニーン			

	公的機関	サイゴン商業公社 (SATRA) 駐日事務所 所長	ユン・クアン・チィ
		大阪府 商工労働部成長産業振興室長	北尾 保己
		大阪府 商工労働部成長産業振興室 国際ビジネス・企業誘致課長	一坂 浩史
	民間企業	伊藤忠商事株式会社 開発調査部長代行	的場 佳子
		伊藤忠商事株式会社 関西開発調査室	塚田 雅子
		一般財団法人 アジア太平洋研究所 アウトリーチ推進部長	吉道 一誠
	ベトナムIT商談会 参加者	クアン・チュンソフトウェアシティ 代表	ラム・グエン・ハイ ロン
		VNITO Alliance メンバー	

## 各都市の発言・プレゼンテーション骨子：

### ラウンドテーブル 午前の部

#### 【開会】大阪市 経済戦略局

立地交流推進部長 和田 彩

午前の部にて、出席者紹介など議事進行を務めた。



#### 【開会挨拶】 大阪市長 吉村 洋文

世界中でグローバル化が進んでいる中、これからは都市と都市が選び、選ばれる時代、都市自体がビジネスや観光等において力を付けていかなければならない時代に突入して行く。急激な経済成長を遂げているアジア太平洋地域が世界の経済を牽引するその力の源泉は皆様の力であり、この度、その皆様と本ラウンドテーブル会議を開催できることを嬉

しく思うとともに、「BPCの各都市におけるイノベーションの創出、国際競争力の強化」のテーマのもと、各都市の取組の共有・意見交換により本会議が有意義なものとなることを期待している。来年6月には日本で初めてのG20サミットが大阪で開催される予定であり、また、大阪・関西は2025年日本国際博覧会に立候補を表明し、現在、国、経済界と一体となり、誘致に力を入れているところである。是非皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。今後もそれぞれのビジネスパートナー都市がますます発展し、国の経済、世界の経済を牽引して行ける都市を目指すべく、更に地域間の交流を深め、良好な関係を築き、共に成長して参りたい。

#### 【各都市のプレゼンテーション】

##### 発表者：大阪市 経済戦略局長 柏木 陸照

アジア太平洋地域の国々は発展を続け、世界経済を牽引しているが、その発展を継続させるためには、イノベーションの創出が重要となる。大阪市では、継続的にイノベーションが創出される環境「イノベーション・エコシステム」を構築する拠点として2013年に大阪イノベーションハブ(OIH)を設置し、ピッチイベントや、ワークショップ、短期集中的なスタートアップの支援プログラムである「アクセラレーションプログラム」などを展開している。また、ネットワークを広げるため、毎年、国際イノベーション会議「Hack Osaka」を開催して



おり、その中では、世界のスタートアップによるピッチコンテストを実施している。昨年、パリやテルアビブなどの他、マニラ、ソウル、ジャカルタからもスタートアップの参加があった。ぜひ各都市には参加を検討してほしい。最後に、現在進めている3つの国際的プロジェクト、① 2025年日本国際博覧会への立候補、② 夢洲での「SMART RESORT CITY」をコンセプトとした統合型リゾート（IR）の開設、そして③ 日本初開催となるG20サミット首脳会議の大阪開催、に関して皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

発表者：香港貿易発展局 大阪事務所長

サミュエル・チェン 氏



イノベーションの創出にあたっては、香港は一带一路構想における開発によって創出される事業機会を通じて世界の企業を支援する用意が出来ている。一带一路構想では5つの重要分野があるが、香港は特にインフラ連結、貿易と投資、金融協力の領域に注力しており、金融業、インフラ・不動産、輸送業に従事する企業に対してはより多くのビジネスチャンスを提供できると考えている。また、イノベーションについて述べる上では、広東・香港・マカオベイエリア（グレーターベイエリア）の事例は外すことは出来ない。同エリアは世界の工場から中国のイノベーションハブへと発展しており、深センはテンセント（Tencent）のようなテクノロジー企業が多く集まる中心地となっている。今後、このベイエリアは地域協力を超えた地域統合が促進されることとなるだろう。一带一路構想とグレーターベイエリアはすべての事業者にとって絶好のビジネスチャンスとなるため、その過程において事業参入する外国企業を応援して行きたい。

発表者：エンタープライズ・シンガポール

北東アジア・オセアニア担当 グローバルマーケットディレクター

ジョニー・テオ 氏

シンガポールは企業のイノベーションを促進するため、長年に渡り研究開発への公共投資を維持、拡大し、エレクトロニクス、IoT、オフショア開発、SCM、代替医療など様々な業界固有のインフラを整備してきた。また、スタートアップを対象とした特別なインフラとして、イノベーション地区とクリーンテクノロジー系企業が入居するジュロン・イノベーション地区を整備している。インフラ施設での支援の枠を超え、大企業やアクセラレータ、VC、多国籍企業などスタートアップイネーブラー（支援組織）から成るコミュニティと共にスタートアップを対象としたイベントや支援プログラムを通じてイノベーション創出の後押しを行っており、今後はそれらのプログラムを通じてスタートアップエコシステムの独創性を高めると共に、他のイノベーションハブとの連携も促進して行きたい。エコシステムを維持するためには、社会にインパクトのある成果をもたらすこと、そして有能人材の確保と育成が重要な要素とな



る。そしてイノベーション創出の過程にある、忍耐強さと結果、成功と失敗、この両極性のバランスを見極めながらスタートアップを支援して行くことが大切である。

発表者：マレーシア貿易開発公社

大阪事務所 所長補佐 橋詰 裕志 氏



イノベーションの創出に関しては、インダストリー4.0におけるマレーシア政府の取り組みを紹介したい。マレーシアでは近年、インダストリー4.0における政府政策の枠組みが策定され、ステークホルダーエンゲージメント、研究開発、雇用促進計画、そしてベンチマーキングなど、様々な実践的アプローチを進めている。例えば、能力構築プログラムの一環

として、1989年にはペナン技能開発センター（PSDC）が設立され、2016年にインダストリー4.0構想が施行された。1991年にはドイツマレーシア専門学校（GMI）が設立され、包括的な研修が提供されている。また、GMIとドイツトレーニングセンターとの共同で、射出成型を目的としたifactory4.0イノベーションセンターも設立された。産官学協働によるイノベーションの促進の例としては、先進的な研究開発と電子工学分野のエンジニアリングの促進の任務を負うマレーシア産官学連携プログラム（CREST）において、インダストリー4.0に向けた製造技術、分析的手法を提供している。このように、マレーシアはインダストリー4.0政策において、多くの戦略的な支援機関を介して、“ステークホルダーを引き付ける”、“適切なエコシステムを創造する”、そして“産業界全体の能力を加速的に転換する”3段階の目標に向かって取り組みを進めている。

発表者：上海市商務委員会

外事処 処長 羅志松（ラシソン）氏

中国は改革開放政策の実施後40年間で経済発展と多くの分野に渡り大きな変化を経験してきたが、上海は商業の近代化において大きな発展を遂げており、多くのビジネスクラスターが立地する商業の中核として、内外の人々のニーズに応えている。上海には既に数多くの国内外の有名ブランド店が立地しているが、もう一つの成長著しい分野である電子商取引



（eコマース）も重要な産業でもあり、100個ものeコマースプラットフォームを展開する企業の活躍により、中国国内では商取引扱い量で第一位の地位を保持している。今後は海外のブランド品が上海において自由に流通される都市となるようビジネス環境を最適化し、ひいては、消費モデルにおけるイノベーションの創出を追求し、上海のショッピングの魅力や影響力を高めて行きたい。最後に、我々の経済と商業を強化する上で非常に大切なイベントである中国国際輸入博覧会（CIIE）が今年の11月に開催される予定であるが、これを機会に皆様の参加を心より歓迎している。

発表者：ホーチミン市人民委員会

産業通商局 市場・外国人起業家振興部 部長 グエン・チ・ゴック 氏



イノベーションは国家発展のための源泉であり、その創出のためには海外からの後押しやきっかけが必要となる。スタートアップの事業活動が促進されることで、その地域での科学技術の優位性が高まることから、ベトナムでは企業のイノベーションの実践や限界性への意識は大きく変わり、スタートアップ振興の動きが盛んになってきている。ホーチ

ミン市では、イノベーション・エコシステムの構築に向けて、22のインキュベータ、12のコワーキングスペース、145名のメンター、75の大学、760のスタートアップなどで海外パートナーとの連携を進めているが、スタートアップはこのイノベーション・エコシステム構築の初期段階において、知的財産権に対する認識が限定的である点、研修開発とイノベーションへの投資が社会で優先されていない点、エコシステムのステークホルダー間の連携が脆弱、研究開発がマーケット指向でない点、自国の研究者・組織、特に海外のベトナム人科学者からの支援が未活用である点、そして専門家、メンターなどのサポーターとのネットワークが未構築である点など、多くの課題に直面している。今後、ホーチミン市はイノベーション創出の為の活動を更に活発にするために、ビジネスパートナー都市と人材教育、スマートシティ、電子政府、ビッグデータ、ICTテクノロジー分野における研究開発および技術移転、スタートアップ企業への投資、メンターや専門家との交流、モデル移転などの点で連携を進め、必要な支援を享受できることを期待している。

発表者：在日本印度商業会議所 役員 ロイ・詩百瑠 氏

弊所はインドの文化、ビジネス商習慣の両面での留意点を理解しているので、スタートアップの事業展開を適切な方向に導くことが出来ると考えている。世界経済は社会問題を解決に導くIoT、ビッグデータ、人工知能(AI)、ロボティクスの第4次産業革命の時代に入り、「メイク・イン・インド政策」の実施以降、インドは投資先、



科学技術の開発地となり、過去10年間で数千ものスタートアップが生まれ、世界で2番目に大きなエコシステムを形成するに至っている。インドの主要都市であるムンバイはB2Bスタートアップの拠点であり、700社以上の企業買収と投資可能なスタートアップの存在、そして利益が見込める950種類以上の産業基盤がある。また、イノベーションの促進を目的に打ち出された「スタートアップ・インド政策」の下、持続可能エネルギー、農業、情報技術、ヘルスケアなどの分野でスタートアップが活躍しており、中でも持続可能エネルギーと情報技術は将来有望な産業分野である。スタートアップエコシステムに関する興味深い事実として、ニューデリー、バンガロール、ムンバイ、チェンナイなどに立地するスタートアップは事業コストが掛からない地方都市に移転しており、この政策のおかげで、今後コストの削減、幅広く参入しやすい市場、そして、起業しやすい環境が整備されることが期待される。

発表者：メルボルン市 評議員、経済開発委員会委員長

ケビン・ルーイ 氏



メルボルンは2017年にインテリジェント・コミュニティ・オブ・ザ・イヤーを受賞したが、その地位と名声を維持するためには、市民、企業にとって住みやすく、ビジネス活動が行いやすい街であり続ける必要がある。メルボルン市では、2014年に市が保有する180ものデータベースにアクセス可能な「オープンデータ・プラットフォーム」を始動したこと

で、スタートアップが大学、研究機関、企業と連結、連携することが可能となった。メルボルンでは、特に身体障害者のための生活環境の整備に重点を置き、イノベーター、テクノロジー企業、そして身体障害者関連団体などと連携し「オープン・イノベーション・コンテスト」を実施した。今回は31件の応募があったが、彼らのソリューションが障害者の生活に組み込まれることにより、障害者が健常者と同様、以前にも増して都市生活に積極的に参加できることが期待され、こういった取り組みは持続可能で公平な都市を具現化する上で重要である。昨年には「メルボルン・スタートアップ・アクションプラン2017-2021」が始動し、スタートアップエコシステムを構築するための新たな方策を模索している。私たちはイノベーションの創出に向けて共通の課題、目標を抱えているが、このビジネスパートナー都市とのつながりを大切にし、今後もBPC地域の発展と繁栄を促進するために密接な連携を図って行きたい。

発表者：天津市商務委員会

武清開発区総公司 招商七部部長

劉福偉 (リュウ フクイ) 氏

私からは、企業のイノベーション創出とスタートアップの発展のために国家レベルで開発された「天津武清開発区(UDA)」を紹介したい。UDAでは、企業とスタートアップのイノベーションを促進するため、5つの主要な取り組みが実施されている。1つ目は「革新的な雰囲気醸成」であり、イノベーション創出に向けた意識を高め、資源を投入



できる状況を改善するため支援が行われている。2つ目は「プラットフォームの構築」であり、UDAには10の企業インキュベータ、5つの生産性向上センター、そして10の博士課程修了研究者のワークステーションが設立されており、スタートアップ支援の環境が整備されている。3つ目は「奨励策とインセンティブの発行」であり、企業への資金と政策の両面での支援を提供している。4つ目は「イノベーション創出の為の資源の収集」であり、UDAでは企業に大学や研究機関を紹介し、生産、教育、そして研究における連携を通して、技術革新能力、研究開発レベルの向上に貢献している。最後は「技術革新のためのサービスシステムの改善」であり、管理システムの合理化からイノベーション保護のための法整備に至るまで、段階的な改善を図っている。

## ラウンドテーブル 午後の部 (フリーディスカッション)

ラウンドテーブル午前の部での各都市からの発表を受けて、初めにモデレーターの宮松氏より、実際に社会に役立つ製品、技術を開発する在阪企業、① akippa 株式会社、② 株式会社 DG TAKANO、③ 株式会社ポラリス、のイノベーションとビジネス事例が紹介された。その後、宮松氏より大阪商工会議所の深野氏に対し、大阪の経済団体が如何にして官民協働によるイノベーション創出の取り組みを進めているのか、その活動内容について質問が行われた。

### 大阪商工会議所 深野氏の発言：

経済団体の役割として、スタートアップにネットワーク構築の機会を提供することは非常に重要である。その一例として、関西経済同友会は在阪の 32 社企業による「関西ベンチャーフレンドリー宣言」が行われ、スタートアップの市場開拓を支援して行くことが確認されている。また、都心型オープンイノベーション拠点「Xport」もネットワーキング構築の機会を提供しており、Xport に所属する大企業はスタートアップ、大学、企業に対して共同研究プロジェクトへの参画を提案している。大阪商工会議所では、在阪の大企業と中小企業とのビジネスマッチングを支援している。次に、自治体の後ろ盾も重要である。大阪商工会議所は大阪市と実証事業の分野を築くための協定を締結したが、それら事業を通じて事業を進める上での規制緩和に繋がることも期待される。私たち経済団体は、スタートアップがイノベーションを生み出すために適した環境を作るという重要な役割を果たして行かなければならない。

その後、宮松氏より、イノベーションに関する人、モノ、情報の交流を活性化させ、各都市が抱えている課題についてイノベーションを用いて解決することが重要である、との感想が述べられた上で、会議出席者に対して、如何にしてその交流と課題解決を図って行くかという点について、意見、感想が求められた。

### 香港貿易発展局から発言：

当局ではイベントだけでなく香港のスタートアップエコシステムに関する多くの有益な情報を提供する 3 つのポータルサイトを整備している。また、資金調達を探すスタートアップ向けのイベントを企画しており、毎年 1 月にはアジア金融フォーラムを開催し、世界中のスタートアップの参加を歓迎し、交流を図っている。人と人をつなげることが大切であり、これこそが当局が今後も継続して行っていくことである。

### エンタープライズ・シンガポールからの発言：

私たちはシンガポールで 3 つの主要イベントを開催している。一つ目は、シンガポール国立大学が主体となって実施される「Innovfest Unbound」、二つ目は、起業家と技術が交流する「The Singapore Week of Innovation & Technology (SWITCH)」、そして、最後に特定産業向けのイベントとして、11 月に「FinTech Festival」を開催している。イベントの開催以外にも、シンガポール政府のスタートアップ支援機関「the Action Community for Entrepreneurship (ACE)」があり、様々な支援を行っている。

マレーシア貿易開発公社からの発言：

ビジネスパートナー都市の提携先機関や各都市の企業間での MOU 提携を通じてイノベーションの創出を促進していくことも大切であり、マレーシアでは、ドイツ企業のバイエル社がマレーシア東海岸経済地域と MOU を締結し、エリア間のビジネス交流を促進させている。また、イノベーション創出のためには、産学と連携した政府（官）による高水準なスタートアップ支援専属部門の存在が必要である。

上海市商務委員会からの発言：

上海はショッピングの中心地であり、昨年スターバックスコーヒーが上海に大型店舗をオープンした。地方政府である上海市はそのスターバックスのビジネスニーズに応えるべく、必要に応じた法律の改正を進めている。これは政府による革新の一例であるが、イノベーションの創出は企業だけが行うものではなく、政府も合わせて変化、革新を図っていくことが重要である。

ホーチミン市人民委員会からの発言：

イノベーションは社会のあらゆる面でその恩恵を享受できるものであり、ビジネスパートナー都市間においてもそれぞれのイノベーションを共有できるものと考えている。大阪がその中心となり BPC ネットワーク間でイノベーションの共有化を進められると良い。

在日本印度商業会議所からの発言：

インド人は、日本には多くの文化的な違いや言葉の障壁がある点を憂慮しているが、過去には失敗事例ばかりでなく、多くの成功事例も多くある。インドとの文化の違いとその課題を理解し、状況に応じた行動をすれば、インドにおいてイノベーションの創出は成し得るものと考えている。インドで日本のやり方で物事を進める場合は失敗する可能性があるので、インドで成功を取めているマルチスズキや日立の様に、それぞれの国、地域、そして現地の住民について理解を深め、行動しなければならない。

メルボルン市からの発言：

メルボルン市はスタートアップ産業を振興するためにビクトリア州政府と連携を図っている。同州政府には「Launch Victoria」というスタートアップ活動へ 1,000 万ドルもの州政府資金を供給するプログラムがある。そして、その資金の一部は「Startup Victoria」というメルボルンの中心エリアを管轄する組織に割り当てられる。またメルボルン市では毎年 300 ドルから 35 万ドルの範囲でスタートアップに資金を割り当てる小規模な助成金制度を設けており、新たな分野で市内の特定地域を活性化させるビジネスアイデアにこそ資金が投下されることが大切であると考えている。このように、資金は限られているが、メルボルン市は「Launch Victoria」、「Startup Victoria」などの他の地方自治体組織と連携を進めている。

天津市商務委員会からの発言：

イノベーションの創出にとって重要な要素は有能な人材である。厳しい競争に勝ち残った有能な人材に対しては資金調達の支援を提供する用意がある。また、有能な人材だけでなく、若いイノベーターに対しても、毎年コンテストなどを実施しながら、選ばれた者に資金面での支援を行って

いる。そういったイノベーターのためにはイノベーション創出に適した環境を整備することも重要であり、無料のオフィスやコンサルサービスを提供している。

#### 大阪市からの発言：

各ビジネスパートナー都市はそれぞれのイノベーションクラスターを有しており、都市間におけるクラスターとの連携、ネットワーク構築が必要であり、成功事例となるものを継続的に創出し、共有することが重要である。また、国際的な連携のためには、それぞれのクラスター内で、産官学による連携を進めることも大切である。日本ではここ 5 年～10 年前まで大手製造業者がスタートアップに注目をする事は無かったが、今ではオープンイノベーションの重要性を認識していることもあり、大阪では、大阪イノベーションハブにて、大手企業が新技術の発掘のためスタートアップとの連携を図っている。BPC ネットワークの強化と国内外との連携のため、都市間で取組を進めることが、私たちの共通の認識であり、今後の方針とすべきことである。

#### 関西経済連合会からの発言：

関西経済連合会や地方自治体にとって最も重要なことは、そのメンバー企業と外国企業とのネットワーク構築を支援してゆくことであり、その為に、今後も継続的にビジネスパートナー都市との連携を図って参りたい。

#### 在大阪オーストラリア総領事館 総領事からの発言：

各ビジネスパートナー都市は新たにビジネスを始める事業者にとって多くの魅力的な特性、強みを持っており、各々が切磋琢磨していると感じた。また、ネットワーク構築のための素晴らしい機会も提供している。将来的には、EU 地域で行われているように、学生の交流、スタートアップの交流、そして我々が持っている企業の競争力向上に繋がるコンテストなどの情報の交流のためのプラットフォームが構築されることを期待している。

#### モデレーター 宮松氏からの発言：

大阪市からの最後の発言の前に当会議を締め括らせていただく。イノベーションを創出するためには BPC 間で情報とアイデアの共有の機会を作り、次にイノベーション創出の取り組みの交流をさらに進めることが大切である。そして、BPC の未来は各都市間の提携とそのイノベーションを促進することで更に重要な役割を果たすことになる。本日の BPC ネットワーキング交流会では大阪市長に本ラウンドテーブルの総括として、今後のイノベーションに係る方針を宣言していただこうと思う。宣言の案としては、イノベーションをアジア太平洋地域の成長の原動力であるとして、BPC 間で互いに協力して、実践の場を拓いていこうという内容で提案したい。

#### 大阪市（柏木氏）の発言：

本日の会議がとても有意義なものとなり、皆様には感謝を申し上げます。最後に 2 点、ご提案とお願いをさせていただきたい。1 つ目は、来年 3 月 13 日に大阪で開催する国際イノベーション会議「Hack Osaka 2019」に、BPC 地域からスタートアップを招待したいと考えており、皆様より候補となる企業をご紹介いただきたい。2 つ目は、Hack Osaka2019 と同時期に開催する 10 日間の BPC 人材研修事業についても参加していただける様ご検討をお願い申し上げます。

### BPC ネットワーキング昼食会 開催報告

30日(木)のラウンドテーブル会議(午前の部)終了後に、大阪外国企業誘致センター(O-BIC)主催により「BPC ネットワーキング昼食会」が開催されました。昼食時にはO-BICにより企業誘致プロモーションが実施され、大阪の投資環境や外国企業への支援内容が紹介されました。

プログラム名	BPC ネットワーキング昼食会 (企業誘致プロモーション)
開催日時	2018年8月30日(木) 12:00-13:30
会場	ハイアットリージェンシー大阪 B1F
主催	大阪外国企業誘致センター (O-BIC)
参加者	BPC ラウンドテーブル参加者、BPC ビジネスミッション団他

### BPC ビジネスイノベーションセミナー 開催報告

30日(木)午後、ラウンドテーブル会議終了後に、大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会は今回のBPC ラウンドテーブル会議のテーマ「BPC 各都市におけるビジネスイノベーションの創出と国際競争力の強化について」に則し、「BPC ビジネスイノベーションセミナー」を開催しました。セミナーでは大阪市がイノベーション・エコシステムの構築に向けて連携を進める在阪企業2社を招き、オープンイノベーションの推進やベンチャー企業の育成に向けた取り組みについての講演が行われました。

プログラム名	BPC ビジネスイノベーションセミナー
開催日時	2018年8月30日(木) 15:30~16:30
会場	ハイアットリージェンシー大阪 「Regency-D」
主催	大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会
司会進行	一般財団法人大阪国際経済振興センター国際部 課長 熊 文匯
プログラム	<p>○開会挨拶 大阪市経済戦略局 理事 稲垣 尚</p> <p>○基調講演① 講演者：ダイキン工業株式会社 テクノロジー・イノベーションセンター 副センター長 河原 克己 氏 演 題：「ダイキン工業におけるオープンイノベーションの取り組み」</p> <p>○基調講演② 講演者：阪急阪神不動産株式会社 開発事業部 都市マネジメント事業部 部長 兼 経営企画本部 海外事業部 部長 高岸 実良 氏 演 題：「大阪・梅田 スタートアップとともに成長する街～GVH#5から世界へ～」</p> <p>○質疑応答</p> <p>○閉会</p>
出席者	BPC ラウンドテーブル参加者、在阪公館関係者、政府機関関係者、経済団体関係者など 61名
講演ポイント	<p>【ダイキン工業株式会社】</p> <p>テクノロジー・イノベーションセンター(TIC)構想</p> <p>空調分野におけるコア技術～フッ素化学分野の取り組み</p>

	<p>今後の課題～ダイキンが実現したい世界の全体像  グローバル産官学連携ネットワーク  大阪大学との情報科学系における包括連携  協創イノベーションネットワーク  AI・IoT を活用したオープンイノベーション事例 など</p> <p>【阪急阪神不動産株式会社】  阪急阪神 HD グループの梅田を中心としたビジネス展開  阪急阪神 HD のビジネスモデル  阪急阪神グループのイノベーション・エコシステムの構築に向けた取り組み  GVH 大阪の開業と支援内容  スタートアップ向けコワーキングスペース「GVH#5」の開業と支援内容  梅田スタートアップファンドについて  大阪市との連携と今後の方向性 など</p>
--	---

#### ベトナム IT 商談会 2018 (大阪) 開催報告

BPC ラウンドテーブル会議が開催された同ホテルの別会場では、大阪市の主催、大阪商工会議所、Vietnam Information Technology Outsourcing Alliance (VNITO Alliance), Quang Trung Software City Development Co. Ltd (QTSC) の共催により「ベトナム IT 商談会 2018 (大阪)」が開催され、ベトナム IT 企業と在阪企業が個別商談を実施しました。

プログラム名	ベトナム IT 商談会 2018 (大阪)
開催日時	平成 30 年 8 月 30 日 (木) 14:00~17:30
会場	ハイアットリージェンシー大阪 2F クリスタルボールルーム
主催	大阪市
共催	大阪商工会議所 Vietnam Information Technology Outsourcing Alliance (VNITO Alliance)、 Quang Trung Software City Development Co. Ltd (QTSC)
後援	在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館、 独立行政法人日本貿易振興機構 (ジェトロ) 大阪本部 大阪・海外市場プロモーション事業推進協議会
来日ベトナム企業 (16 社)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Quang Trung Software City Development Company Limited</li> <li>2. Sunrise Software Solutions Corporation</li> <li>3. IMT SOLUTIONS</li> <li>4. LARION Consulting and Software Development Company Limited</li> <li>5. Kaopiz Software Co., Ltd.</li> <li>6. ARIS Vietnam</li> <li>7. Orient Software</li> <li>8. Bản Viên</li> </ol>

	9. Rikkeisoft 10. Fujinet Systems 11. Sotatek 12. CODELOVERS VIETNAM., JSC 13. GMO-Z.com RUNSYSTEM 14. DIROX COMPANY LIMITED 15. IPSIP VIETNAM OMLLC 16. IFI SOLUTION
結果	商談件数：112 件 参加日本企業：29 社 35 名

### 万国博覧会 (World EXPO) 2025 プロモーションツアー 実施報告

30 日 (木) 午後、BPC ビジネスイノベーションセミナーの後には、大阪市の主催により、「万国博覧会 (World EXPO) 2025 ツアー」が実施され、大阪への万博誘致に向けた取り組みや候補会場である夢洲地区の開発計画などが紹介されました。

プログラム名	万国博覧会 (World EXPO) 2025 プロモーションツアー
開催日時	2018 年 8 月 30 日 (木) 16:45-18:00
訪問先	大阪府咲洲庁舎 44 階 会議室
主 催	大阪市、大阪府
プログラム	○ 大阪府によるプレゼンテーション 「大阪・関西での万国博覧会 (World EXPO) 2025 開催に向けて」 ○ 大阪府咲洲庁舎からの夢洲地区の見学
参加者	BPC ラウンドテーブル参加者、民間事業者、大阪府、大阪市、経済団体関係者など 48 名

### BPC ラウンドテーブル ネットワーキングレセプション開催報告

BPC ラウンドテーブル会議当日の夕刻には、大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会の主催で「BPC ラウンドテーブル ネットワーキングレセプション」が開催されました。冒頭には、ラウンドテーブル会議でのモデレーターからの提案を受け、吉村大阪市長より「イノベーションは、アジア太平洋地域の成長の原動力である。我々は、互いに協力し、イノベーションの実践の場を拡げ、共に成長することを宣言する。」との BPC 大阪宣言が行われました。その後、会場ではラウンドテーブル参加者をはじめ、在阪公館関係者、政府機関関係者、経済団体関係者などからの参加者約 120 名が親睦を図りました。

プログラム名	BPC ラウンドテーブル ネットワーキングレセプション
開催日時	2018 年 8 月 30 日 (木) 18:30 - 20:30
会 場	ハイアットリージェンシー大阪 28F 「サロンパノラマ」
主 催	大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会
プログラム	○ 開会

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歓迎挨拶 大阪市長 吉村 洋文</li> <li>○ 来賓挨拶 在大阪オーストラリア総領事館 デイビッド・ローソン総領事</li> <li>○ 福娘による歓迎（今宮戎神社、大阪締めなどのご紹介）～ 歓談</li> <li>○ 閉会</li> </ul>
出席者	BPC ラウンドテーブル出席者、在阪公館関係者、政府機関関係者、経済団体関係者、大阪商工会議所・IBPC 大阪会員企業など約 120 名

### 大阪市 イノベーション創出拠点 視察ツアー報告

BPC ラウンドテーブルの前日 29 日（水）の夕刻には、「大阪市イノベーション創出拠点視察ツアー」が実施され、イノベーション創出拠点施設「大阪イノベーションハブ」の事業概要やイノベーション創出の取り組みについての説明が行われた後に、大阪のスタートアップ企業によるピッチが行われました。

プログラム名	大阪市 イノベーション創出拠点 視察ツアー
開催日時	2018 年 8 月 29 日（水）18：00～18：50
会 場	大阪イノベーションハブ（OIH）
主 催	大阪市
プログラム	<p>(MC) 大阪市経済戦略局イノベーション担当課長代理 田原 裕之</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大阪イノベーションハブ紹介 大阪イノベーションハブ 石飛 恵美</li> <li>○ スタートアップ企業ピッチ (登壇者) ・ネクストイノベーション株式会社 ・プレロボティクス株式会社</li> </ul> <p>※ ツアー終了後、ウェルカムディナーを開催</p>
出席者	BPC ラウンドテーブル参加者、大阪市、大阪 BPC 交流協議会 関係者など 24 名

### 大阪ベイエリア 視察ツアー（オプション） 実施報告

BPC ラウンドテーブル会議翌日の 31 日（金）にはオプションツアーとして「大阪ベイエリア視察ツアー」が実施され、G20 サミット 2019 の候補会場である INTEX 大阪と製品評価技術基盤機構（NITE）を訪問し、大阪ベイエリアの最新動向を視察しました。

プログラム名	大阪ベイエリア 視察ツアー（オプション）
開催日時	2018 年 8 月 31 日（金）9：15～11：30
訪問先	<ul style="list-style-type: none"> <li>○INTEX 大阪（G20 サミット 2019 候補会場）</li> <li>○独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）</li> </ul>
プログラム	<p>【INTEX 大阪】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○営業部によるインテックス大阪の事業概要の説明</li> <li>○大阪市による「G20 大阪サミット首脳会議」の説明</li> <li>○インテックス大阪館内の視察</li> </ul>

	<p><b>【NITE】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○NITE 大型蓄電池システム試験評価施設（NLAB）の説明</li> <li>○大型蓄電池システム試験評価施設（NLAB）他 視察</li> <li>○質疑応答、意見交換</li> </ul>
参加者	BPC ラウンドテーブル参加者、大阪市、大阪 BPC 交流協議会 関係者など 14 名